

新しい公民館活動の更なる発展をめざして

— 楽しく集う地域コミュニティの場 —

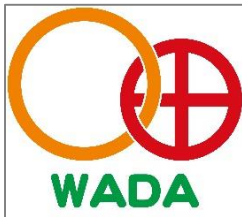
和田公民館

1 和田地区の概要

福井市東部に位置し、南北に国道8号線、東西に国道158線が走る、きわめて交通の便の良い地区である。以前は緑豊かな田園風景が広がっていたが、現在は住宅地・商業地として急速に都市化が進んでいる。

また和田地区には、福井市防災センターや福井市東消防署があり、市民の防災の拠点としても期待されている。

和田地区の中心には、総社和田八幡宮がある。平安時代中期に、清和源氏の祖「源満仲」が創建したとされる神社である。毎年、節分前の日曜日には、冷水を浴びて身を清める「大寒みそぎ」が行われ、県内外から多くの人を訪れる。



公民館は、平成28年4月に現在の地に移転・新築した。この機に、住民から公募した和田地区のシンボルマークが誕生した。

和田の“和”は地域の団結や協力を意味する“輪”でもある。2つの重なり合った円で地名を表すとともに、ローマ字の緑色は和田地区の自然を、円の赤色とオレンジ色は地区の協調と発展を象徴している。

平成29年4月1日現在、世帯数は4,546戸、人口は11,253人である。当地区も、近年は核家族化が進む傾向にある。

2 公民館の特色ある取組

公民館の新築に合わせて、未来の地域づくりを見通し、「和田地区



活性化委員会」を設置した。委員には、小学校PTA役員や青年グループの代表者など若い世代も加わっており、地域コミュニティ活性化事業の企画・運営、美しい生活環境と安心安全な地域づくりなどを協議していく場となっている。

地域ぐるみで和田地区の魅力を再発見し、住民が集う行事を手づくりで工夫している。そのいくつかを紹介していきたい。

(1) 地区の歴史を語る「くちパク和いわい劇団」

この劇は、異世代の交流が期待できる「敬老会・ふれあいまつり」の場で共通の話題になるものを披露したいという気持ちから考え出された。

今年で6年目になり、毎年工夫を凝らして、地区に関する内容を素材に創作劇をつくりあげている。



【くちパク劇「濡れた石仏さま」】

事前に録音したセリフに合わせて、やや大げさに身ぶり・手ぶりで演技をするので、誰でも気軽に参加できる。

小学生から70歳代の高齢者まで、幅広い世代が公民館に集まって練習を重ねている。音声は調整ができるので観客にはっきりと伝わること、演じる側は体全体で表現できることなどが、「くちパク劇」の魅力である。近年は、公民館の教育事業活動として定着してきており、計画的に練習を行いながら本番に備えている。今まで、地区の歴史や伝統、空襲など多様な題材を取り上げてきた。

昨年9月に実施された5回目の劇は、5月頃から練習や小道具作りを始めた。脚本や稽古指導も和田地区の住民が手掛けている。

本番では、出演者の熱演と会場の温かい雰囲気の中で全員が笑いに包まれていた。地区民に一体感が生まれ毎年大盛況の催しとなっている。

(2) 「れんげ和ん田あ〜らんど祭」での触れ合い



自治会連合会や、まちづくり委員会などの各種団体と連携し、毎年5月には、美しく咲き揃ったレンゲ畑の中で地区民が触れ合う機会を企画・運営している。和田中町（福井県済生会病院北側）の約1.2ヘクタールの休耕田で開催され、平成29年度で11回目を迎えた。大勢の家族連れが訪れ、広い畑の中でトラクターの乗車体験を楽しんだ。

和田八幡宮の風陣太鼓で始まり、消防音楽隊の演奏・地区の中学校バトン演技・フラダンス・紙芝居など、多彩なステージ発表を繰り広げる。また、子どもたちが楽しめる体験コーナーもあり、おもしろ自転車の試乗を楽しんだりヤギと触れ合ったりして、一日中賑わいを見せていた。

3 対話により生まれる“心のつながり”

公民館には、玄関横に日当たりの良い談話室が新設された。誰もが訪れやすく、住民同士が気軽に交流できるスペースとして配慮されている。

また、1階の和室では毎月2回、若い母親と乳幼児を対象にした子育て支援事業「よちよちくらぶ」を実施している。育児相談はもちろん、母親同士の情報交換や親子の居場所づくりなどを目的としている。今年度は、「親子リトミック」や「わらべうたベビーマッサージ」など、興味深い内容を計画している。

一方、環境美化活動として、6月には「プランターの苗植え」、11月には「レンゲの種まき」、3月には「足羽川清掃」など、地域ぐるみで触れ合いながら実践している。

和田の“和”は、「団結・絆・つながりをより強くしていく」ととらえ、新しい出会いや仲間との“和と

輪”を大切にしようという気持ちで取り組んでいる。

4 「文部科学大臣賞（全国優秀館）」の受賞

これらの地道な実践が認められ、平成28年度末には、文部科学大臣賞（全国優秀館）を受賞した。全国の優良公民館の中から5館が選ばれ、その後の最終審査で、全国優秀館に決定した。

地区の歴史や暮らしぶりが、手づくりの劇を通して地域住民に還元され役立っていること、和田地区の名物（自慢）として「くちパク劇団」や「れんげ和ん田あ〜らんど祭」が定着してきたことなどが、高く評価されたと考えられる。



【公民館窓口付近の掲示物】

5 終わりに

和田地区民のスローガンである「和田発展不已(やまず)」を合言葉に、積極的に多くの事業に取り組んでいる。

特に、異世代交流を通して地域がますます活性化するように努めていきたい。そのためには、和田地区の大切な宝である歴史や伝統を継承し、若い世代に伝える事業にも挑戦するつもりである。

自分たちの手で行動を起こすことをモットーにし、それによって“何かが生まれ”“何かを得る”と信じている。

和田地区のシンボルマークにもあるように、地区民の間にすばらしい“和”が生まれ、大人も子どもも共に楽しく笑顔で集える地域づくりに取り組んでいきたい。この積み重ねが、和田地区の発展につながるべくものとする。

和田地区の魅力あふれる取組は、決して一朝一夕で築かれたものではないことを、館長さんのお話から感じ取ることができました。これらを大切に伝承させ、よりいっそう地区民の意識を高めながら、“ふるさと和田を愛する心”を育ててほしいと思います。